

8月16日(月曜日)

ドル/円

底打ちムードを醸し出せるか

13日(金)の主な推移

チャート: 30分足 13日(金)朝6時 ~ 14日(土)朝6時

NYダウ平均

10303.15ドル
(-16.80ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.6770%
(-0.0685%)

NY原油先物

75.39ドル
(-0.35ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

①

早朝に発表された6月NZ小売売上高が事前予想を上回る結果となり、NZドル/円の急上昇に連れてドル/円も上昇した。また朝日新聞が「来週の早い段階に、菅首相が白川日銀総裁と円高について会談へ」と報じたことで、市場では為替介入や金融緩和の思惑が広がり、ドル/円は86.19円まで反発した。

②

イタリアの国債入札が不調となったことを受け、ギリシャやスペインなど南欧諸国と独自の10年債の利回り格差が拡大し、欧州株が下落に転じるなど、欧州の財政や金融が不安視されユーロが下落した。これにより市場ではリスク回避の動きが強まり、クロス円の下げによりドル/円は85.56円まで下落した。

③

米8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が69.6となり、予想(69.0)や前月の確報値(67.8)をも上回る結果となり、NYダウ平均が上昇。またロンドンフィキシング(日本時間24時)に向けたドル買いが出たことなどが手がかりとなり、連れてドル/円は86.39円まで上昇した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 85.40— 86.70円

本日NY市場では米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数の発表が予定されている。前月は予想外の悪化を受け、市場では同時に発表された新規失業保険申請件数の好結果よりも材料視されたことで、ドル/円が下落した。そのため同指数の行方には注意したい。

また先週末の欧州時間にて欧州の財政や金融に対する不安が台頭し、市場ではリスクを回避する動きへとつながると、ユーロ/円を始めとしたクロス円が下落。これに連れてドル/円は下落したことから、欧州の金融システムが再び不安視された場合、ドル/円は結果的には円高圧力が加わることが予想される。

テクニカル面ではドル/円は8月4日以来となる、引値での86円台を回復したことにより、目先は底入れの可能性が出てきた。もし86.41円(7月28日高値88.11円～8月11日安値84.71円の値幅3.40円の半値戻し)を突破出来れば、目先は戻り上値を試す展開となることも予想される。(川畑)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/16(月)	21:30	○	(米) 8月ニューヨーク連銀製造業景気指数	5.08	8.30
	22:00		(米) 6月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+354億USD	+457億USD
	22:00		(米) 6月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+175億USD	+400億USD
	23:00		(米) 8月NAHB住宅市場指数	14	15

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com